

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・販売量が前年に比べて、2倍近く増加している。株価高騰を理由に購入に踏み切る客も多い。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・売上が好調なことに加えて、高額なボトルワインの売行きが伸びている。
(九州)		商店街（代表者）	販売量の動き	・寒くなってきたので、季節商材が売れている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は売上高は苦戦しているが、来客数は増加している。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・熊本地震の影響で仮店舗で営業中だが、冬になるに従って雨風、寒さが強くなっており、その対策や補修に追われている。売上は伸びているが補修費用が掛かり、結果的に良くない状況である。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・今月上旬は地元プロ野球球団の優勝があり消費は活性化した。中盤以降は冷え込んできたので冬物衣料の動きが良かった。なにか催事があれば消費が動く。中間層の消費がまだまだだが、外国人観光客の売上と富裕層の売上が好調である。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・友の会満期による新規入会や例年好調の物産展や自社カード関連催事で客の期待度が上がり来客数は増え、催事も好調であった。物産展は連日開店前から行列ができ、混雑緩和と安全のため入場制限したが売上は伸びた。お歳暮ギフトは来客数増と売上点数増により1品単価の下落を補い、出足は好調である。
		百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・前年11月に比べ、中旬以降は最低気温10度以下の日が多く、コートを中心とした重衣料の動きが好調である。また、外国人観光客の購入も好調が続いている。
		百貨店（店舗事業計画部）	販売量の動き	・年末に向けて、贈答品に限らず自分へのご褒美として高級ブランドの時計や雑貨を購入する客の姿が見られる。また気温の順調な低下を受けて重衣料の売上も伸長している。
		百貨店（営業統括）	来客数の動き	・天候が良ければ来客数が増える傾向が強まってきた。また来客数と共に客単価、購入点数も合わせて回復してきている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・以前に比べ、衣料品関連の動きが顕著である。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・わずかだが客単価、来客数共に、前年を上回った。ただ2か月連続前年割れ後の今月なので良くなったという判断には程遠い。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・8月の最悪期に比べると来客数や客単価は上がっている。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	販売量の動き	・一般的に温暖な気候が続いたため、人出も多く来客数も増え、前年比で売上が増えた。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・ようやく寒くなり、宴会等で温かいものを食べるに行くような環境になってきた。来店客数も増えており、客の様子が変わってきた。
		高級レストラン（支配人）	単価の動き	・前月より購買単価の高い客が目立った。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・前年比で売上が約5%伸びており、高額なメニューも出ている。確実に前年よりは好調である。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・11月の稼働率と売上は、開業以来最高になる。催事の影響もあるが、相撲人気からなのか、日曜日の稼働率も高かった。
		都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・9～12月は、毎週半ばから週末にかけて催事があり、当市全体に客が流れている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・当地は様々な催しや、地元プロ野球球団の祝賀行事で来客数がかかり増えた。
		タクシー運転手	来客数の動き	・月の半ばくらいから週末の繁華街では人通りも増え、内外の観光客の増加によりタクシー利用も増え、堅調を維持している。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・新商品投入を契機に新しい需要が見えてきて、売上に表れはじめた。
	競輪場（職員）	販売量の動き	・前年同月比で売上に回復の兆しがある。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・3か月前に比べると景気は上向きだが、前年同月比では大幅に減少している。大企業だけが景気がよく、中小、自営には全く良くない。	

商店街（代表者）	お客様の様子	・来客数はあるが購入点数や購買行動が非常に悪い。欲しいと思っているが買わない状況である。
商店街（代表者）	お客様の様子	・来客数に変化はないが、アジアからの外国人観光客が多い。ただ、売上には全くつながっていない。
商店街（代表者）	お客様の様子	・冬になり高額商品が売れ始める時期だが、販売量に伸び悩みがある。安価な商品ばかり売れて、売上増につながらない。
一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・そろそろフグが動き始めた。本格的には来月だが、まずまずの動きである。その他の魚に関しては顕著な動きはあまりない。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・気温の低下が例年より早く衣料品の動きに期待したが、客の反応は薄い。前年まで売れていたリビング商材も落ち着いている。客からは必要な時がきたら買うという声が多く、それ以外のものは価格が安くても見向きもされない。
百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・単純に見ると良くない。他社はブラックフライデーがかなり好調な様子である。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・生鮮食品にやや持ち直しの動きが見られるものの、全体的には来客数が前年を下回っている状況が続いており消費に力強さが無い。
スーパー（統括者）	お客様の様子	・新規出店で非常に安価でも、必要のない商品を購入する客が少なくなっている。食料品についてはかなり価格に厳しく、余分な買物はしない。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月は天候不順で、特に売上が集中する週末の天候が悪く、来客数も大幅に減少し厳しい状況が続いている。前年比95%と、今年初めて前年を割り込んだ。
コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・店内商品を年末年始向けに入替えた。それに伴い値下げを行ったが商品を手にとって購入する客が少ない。そのため、あともう1品の買い足しが無い。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べてもあまり変化はない。客の動きには変わりはない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・相変わらず来客数が少ない。他店も同様で商店街全体としても、7月の九州北部豪雨の影響で来客数が減少している。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・急に寒くなり重衣料が動き出したので客単価も商品単価も上がったが、買換え需要がほとんどで景気が良くなったからではない。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・全体的な売上が良くない。冷蔵庫や洗濯機等の大型商品に限ったことではなく炊飯器や掃除機等も若干数字が悪い。
家電量販店（総務担当）	お客様の様子	・テレビ等、映像関連商品は高額商品が順調だが、冷蔵庫・洗濯機等の生活家電は動きが鈍い。
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・売上は前年並みに推移している。大きな落ち込みはないが、客の購買意欲はあまりない。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・商品力の高い新型車が複数投入され堅調に推移している。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・都市部での販売促進活動は今月も順調である。新規販売事業は今月は良くない。店舗販売は相変わらず良くない。
その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	販売量の動き	・若干寒くなってきたので前月、先々月と比較して温かい飲料を求めて来店客が増えており、それに伴い、売上も伸びてきている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括者）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は上昇傾向である。11月に入り寒さが増し、例年並みに灯油の販売が始まった。販売量も例年並みである。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・前年の大人気映画の影響と、今年の大規模店舗の入替工事、全館的に来客数は減少しているものの、既存店の販売量については横ばいである。
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	お客様の様子	・前年秋から韓国からの観光客が増加しているが、今年は更に増加傾向にある。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・11月中旬までは忙しくなかったが、後半から少し早めの忘年会の団体客が少しずつ増えてきたので少しは盛り返してきた。ただ、例年の11月と比べると良くなかった。
都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・現在、前年並みに推移しているがもう少し伸びがある。

	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・北朝鮮情勢が長引いており、数を稼ぐ韓国方面への注文が本調子ではない。年末年始の動きもやや鈍ってきている。国内は関西、関東の大型レジャー施設への旅行が好調を維持している。
	タクシー運転手	お客様の様子	・今年は10～11月は来客数が少なかったが11月中旬以降少しづつ増えてきたので年末に向けて期待できる。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・数か月前から良くない状況が数字に表れてきている。繁忙期を控えて一時的な落ち込みかもしれないが回復は期待できない。今一つ、景気対策が欲しい。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・利用者は微増であるが、単価の低い軽度者の割合が増加しており、前年度よりも単価が大きく低下している。
	設計事務所（所長）	単価の動き	・材料の単価は上がってきているが、予算が上がらないことが多い。
	設計事務所（代表）	来客数の動き	・ちょっと良くなる期待感はあるが、現在の状況は変わらない。
	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・マンションは場所柄が良いため売上は好調であるが、各市周辺の戸建て販売の売行きはマンションに比べて下がる。景気の良い客もあり、市内中心部の物件は順調に伸びている。購買層もそちらについている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新築の受注は前月よりも若干良くなっているが景気向上きとまではいかない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・9～10月に続いた台風の影響がいまだに残っており、来客数、販売量共に非常に厳しい。
	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・11月に入り全国的に急に冷え込んできたので、ハウス栽培のキュウリ、トマト、ピーマンは当県が産地のため、高騰している。レタス、サニーレタスの産地は台風と寒さの影響で前年の倍の相場になっている。発注数も減っている。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・寒くなり例年ならば売上は増えるところだが減少している。天候も原因の一つではあるが徐々に来客数は落ち込んでいる。
	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・冬物の季節に入ったが衣料品店舗の売上は回復せず、また比較的堅調に推移していた飲食店舗が競合の激化により、特に宴会需要が前年より弱く全体を押し下げている。客の購買意欲が感じられない危機的状況である。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・季節商材の販売動向が鈍い。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・野菜や、輸入牛肉高騰により販売量がかなり減少している。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・売上が前年を超えている店舗が少なく、特に来客数が減少している店舗が増えており単価の上昇も見込めない中、売上減が続いている。生鮮食品は前年の数字を大きく下回り厳しい状況である。
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・熊本地震の影響で1年前は競合店が閉まっていたが、今月で再開となり苦戦している。特に一般食品の贈答品の動向が厳しく前年比の96%くらいである。生鮮食料品は青果の相場が最近上がったが前年比92%くらいで大変厳しい。刺身離れでマグロがずっと低迷しており、鮮魚が一番厳しい。
	コンビニ（店長）	販売量の動き	・11月に入って、販売がこれまでのように伸びていない。むしろ下がり気味である。
	ドラッグストア（部長）	来客数の動き	・比較的天候には恵まれた月であったが来客数が伸びなかった。
	スナック（経営者）	来客数の動き	・例年11月は1年のうち1～2位の売上だが、今年はいつもの月と変わらない売上、同月比過去最低であった。
	旅行代理店（企画）	お客様の様子	・下期に入り、客の申込動向が鈍化している。
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・今年は想像していたより日本人団体客が少ない。外国人観光客は前年よりアジア系が特に多い。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・店を出して2か月になるが天候も悪く客がなかなか来ない。
	美容室（店長）	来客数の動き	・例年11月頃から忙しくなるが、今年は12月になって来店しようとしているようで来客数が少ない。
	音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・今後受験期になり切捨てられる部門である。
	×	*	*
			*

企業 動向 関連 (九州)	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年11月は居酒屋やスーパーマーケット等は12月の特別需要を前に落ち込むが、今年はそういった傾向がなく注文も多い。冷凍食品メーカーも年末年始の需要生産で発注が多く例年並みに順調である。
	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・台風通過後から市況が高値となっていたため、九州の産地一部にとっては好循環であったが、台風で露地野菜に被害がでた地域は、深刻な影響を受けた。価格は徐々に例年どおりになりつつある。曇天の影響もあり、出荷量は前年よりは低い。
	農林水産業（営業）	受注量や販売量の動き	・季節要因もあるが、例年に比べ市況の緩みもなく順調に販売が伸びている。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節的にも原料の収穫期であり、製造・販売共に最盛期を迎えている。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・9月の半期決算の結果が前年比100%であった。前期は景気に左右されない大型物件の受注があったため売上の数字が伸びたが、今期はそのような突発的な受注もなく、売上は前年並みであった。全般的に客からの受注が伸びている。つまり得意先の件数が増えたわけではなく得意先1件当たりの受注額が広く伸びた結果である。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・機械部品加工の引き合いが多くなってきた。対応しきれないくらいの量だが、値段、納期は依然として大変厳しい。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・11月は多少もたついたが12～翌年3月は受注が好調である。主力の半導体製造装置メーカーはかなりの増産を計画している。
	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・自動車関連、電池関連の大手取引先からの引き合いが強い。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年末の販売に向けて在庫が増加している。売るために在庫を積み増ししているとのことであり、今月は10月より活発になっている。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・当県は今月ゴルフ月間で、男子女子の2つの大きな大会があり、大勢の観光客が当地を訪れた。小売業、観光業、飲食業の景気が良かった。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・新車の国内販売台数の伸びは鈍化してきたが、百貨店やスーパーマーケット、家電の売上は増加している。また、低金利を追い風に住宅販売が比較的高水準で推移している。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の建設業、不動産業、運送業は人手が足りないが受注量は今でも増えている。一般消費に係る住宅関係も、リフォーム、新築一戸建ても購買意欲が旺盛で売上高が伸びているためやや良くなっている。
	金融業（営業）	取引先の様子	・製造業を始め、企業の受注状況は高水準で設備投資もそこそこ見られる。株高もありやや明るい雰囲気である。
	経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・高額商品が売れている。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・次年度の事業計画や設備投資計画の策定が各社始まった。数社に聞き込みしたが、利益計画は順調な会社が多い。特に施工・メンテナンス・商材・機能等、特色ある機能を持っている会社は安売りしない方向に進んでいる。全く別の話だが、市民ランナーが周りに増加している。各地のマラソン大会に参加し、海外の大会に参加する人もいる。そういう意味では景気は良くなっている。
	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・暖かい気候により、衣料品の売上は伸びていない。工場によっては暇なところが多いようである。売場もいろいろな仕掛けをしているが、その時だけで、結局続かず自分の首を絞める結果になっている。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・産地全体としては芳しくない。注文数も以前と比べて少ない。特に小規模なところは注文数が減少しているようで、2社廃業した。
	金属製品製造業（事業統括）	受注価格や販売価格の動き	・短期的には改善しているが、例年この時期は受注、売上共に改善するため、一概には言えない。
	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・受注はあるものの原材料確保が困難で、生産が遅れている。中国で材料が止まっており日本へ回ってきていない。
建設業（経営者）	取引先の様子	・客の様子に変わりはない。	

	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・業務用調味料や食料品関係の出荷量は例年以上に増えているものの、衣料品、その他の貨物は例年どおりで、景気が上向きとは言い難い。 ・同業者の情報によると状況は変わらない。
	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先と業況に関する意見交換をした際、大きな動きがあるという話はほとんどなかった。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・熊本地震の復興関連も一段落し、売上が落ちているといった話をよく聞く。11月は9月決算企業の業績が分かる月だが、非常に良かったので驚いた。
	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村の調査・計画・設計等の委託業務は、9月補正予算で予算計上している市町村が少ないため新たな発注が少ない。追加で見積の提出を行っても、予算が少ないことから高いといわれる場合がある。受注が少ないことから、景気が悪いままで推移している。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末の資金調整のために客先は受注量を抑えている。ただ景気が悪い状況ではない。
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・民間の見積依頼が数件あるが、官公庁の工事については発注が少なすぎる。12月補正が県で決定はしているが、工事として発注されるまでに時間が掛かりそうである。受注量は前年比で20%減で今のままでは回復は不可能である。
	x	-	-
雇用関連 (九州)	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・サービス業を中心に売上が伸びており、人手不足が顕著になっている。そのため人材派遣の需要も高まり、企業からの求人数は3か月前と比べて非常に伸びている。ただ、どの企業も採用意欲が高く正社員求人も増加しているが、派遣会社への新規登録者数が減少しているため人材を紹介することができない状況が続いている。
	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・欠員補充での依頼がほとんどだが、増員で依頼する企業も出てきている。お歳暮時期でもあり人員確保のための依頼数が増えている。
	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・企業からの求人数も増加しており、求職者が既に直接雇用で就業されていることが多々あることから、雇用に関しては安定しており景気は上向いている。
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・通信業界、コールセンター等の求人数が微増している。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・事務系の派遣社員の依頼が減少している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ここ2年、採用難と言われているが、弊社で発行している求人情報誌、インターネットでの求人情報でも採用が難しくなっている。これは当社だけでなく、全国的にかなり苦戦しており、ここ最近この傾向は顕著である。
	職業安定所（所長）	求人数の動き	・人手不足を反映して求人数が増加しているが、採用できずに再募集が続いていることが要因である。よって景気としては横ばいである。
	職業安定所（職員）	それ以外	・産業により受注の増減に差が大きく、平均すると変化がない。特に福祉業については人手不足、利用者減により厳しい。建設業については、有資格者が不足しているため入札に入れないとこのことで状況は厳しい。反面、製造業、特に半導体製造業については受注が増えて業績が上向いている。
	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・当所の求職者数は、前年同月比で数%程度下回る状況が続いている。特に、30～50歳代の中堅層の男性求職者が減少している。ただし、30歳前後は、男女とも在職中に転職活動をする数が前年度を上回っている。この年齢層は、より良い労働条件を求めて、転職活動をする意欲が他の年齢層より高い。
	職業安定所（職業紹介）	求人数の動き	・引き続き求人数の増加がみられ管内の有効求人倍率も高い水準で推移している。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・新卒採用に向けた求人受理件数は前月や前年と比較して若干減少しているが、中小企業を中心に人材不足による内定未充足の状況である。
	x	-	-